

令和7年度 中小企業診断士第1次試験

■過去3年間の平均点の推移

	R05	R06	R07
経済学・経済政策	57.5	57.9	52.8
財務・会計	60.3	57.8	52.7
企業経営理論	61.1	67.9	57.0
運営管理	54.6	60.6	55.2
経営法務	61.4	54.4	57.2
経営情報システム	53.7	51.8	50.6
中小企業経営・政策	60.4	52.6	66.6
	58.4	58.0	56.2

■令和7年度の各科目の状況（全体）

	平均点	標準偏差
経済学・経済政策	52.8点	13.5
財務・会計	52.7点	12.8
企業経営理論	57.0点	12.7
運営管理	55.2点	11.5
経営法務	57.2点	11.7
経営情報システム	50.6点	13.2
中小企業経営・政策	66.6点	12.5

	60点以上の割合	40点未満の割合
経済学・経済政策	35.9%	11.5%
財務・会計	31.7%	11.8%
企業経営理論	51.4%	10.0%
運営管理	32.0%	10.6%
経営法務	54.3%	7.4%
経営情報システム	28.5%	18.6%
中小企業経営・政策	74.4%	3.6%

	最高点	最低点
経済学・経済政策	80点	24点
財務・会計	88点	20点
企業経営理論	81点	28点
運営管理	82点	24点
経営法務	84点	24点
経営情報システム	80点	24点
中小企業経営・政策	94点	28点

■令和7年度の各科目の状況（合格基準をクリアされた方の状況）

	平均点	最高点	最低点
経済学・経済政策	65.8点	80点	44点
財務・会計	61.5点	88点	40点
企業経営理論	65.9点	81点	47点
運営管理	63.6点	82点	49点
経営法務	63.0点	84点	48点
経営情報システム	61.5点	80点	48点
中小企業経営・政策	74.4点	94点	61点

注）当校で実施した採点サービスのデータに基づいたものであり、本試験全体のものとは異なりますので、予めご了承ください。

《コメント》

当校の採点サービスにご参加くださりまして、誠にありがとうございました。8月18日現在の受験生の皆様のデータを集計致しました。（有効回答者のみのデータ）

単純に比較することはできませんが、令和7年度の本試験は例年並みの難易度であったと考えます。

①平均点が低下した科目

「経済学・経済政策」「財務・会計」「企業経営理論」「運営管理」

②平均点が上昇した科目

「経営法務」「中小企業経営・中小企業政策」

③横ばいの科目

「経営情報システム」

したがって、平均点の高い科目（「中小企業経営・中小企業政策」等）で、平均点の低い科目（「経営情報システム」「経済学・経済政策」「財務・会計」）の不足分をしっかりとカバーできたかで合否が決まると考えます。

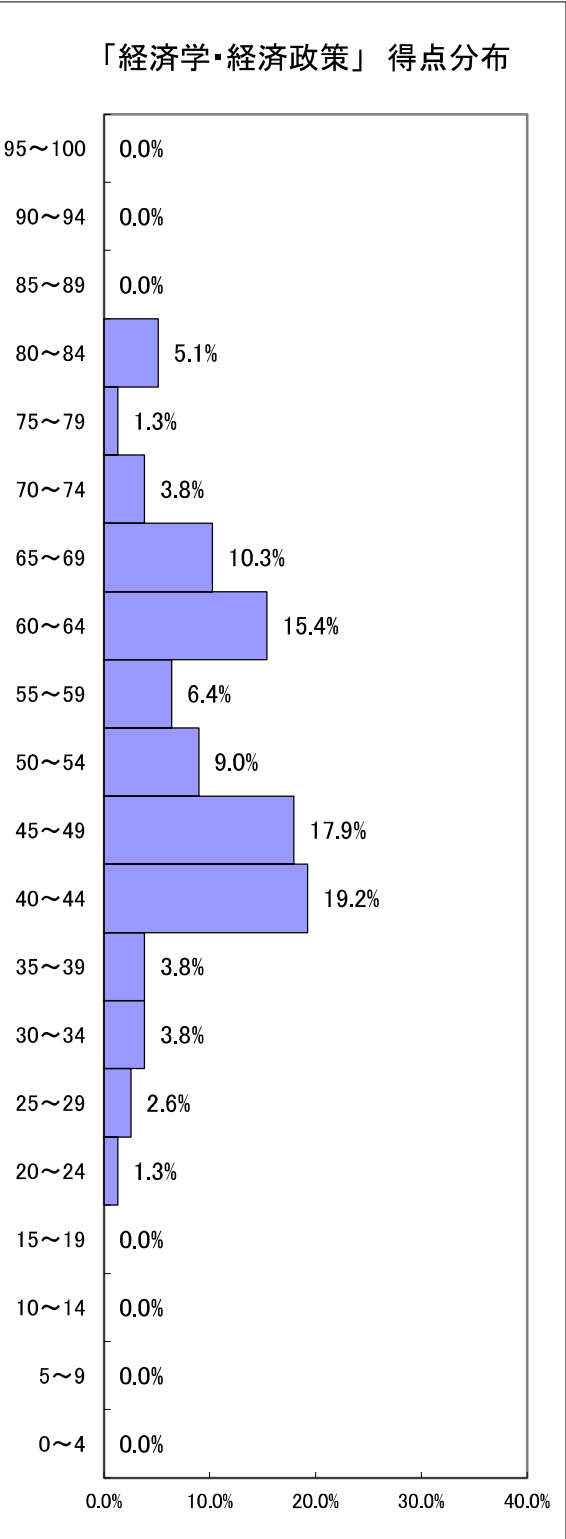
ご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました。当校職員一同、皆様の試験合格と今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

A

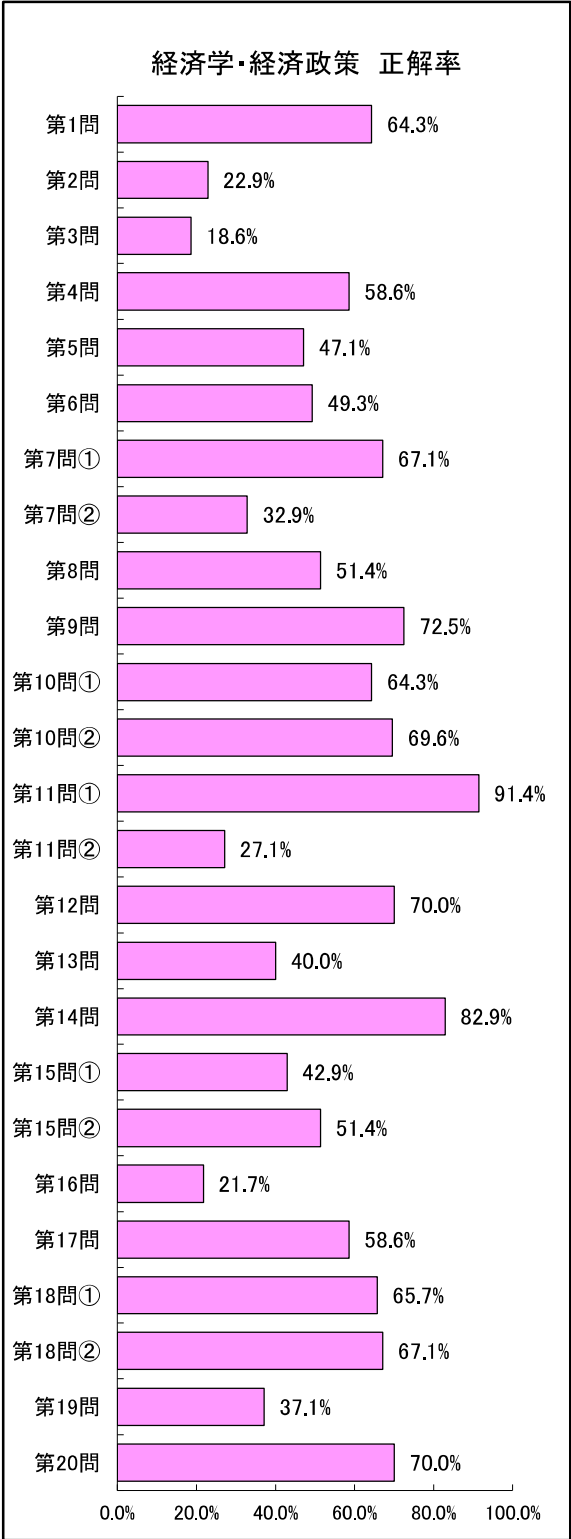
経済学・経済政策

平均点：52.8点、標準偏差：13.5

■ 得点分布



■ 設問別正解率

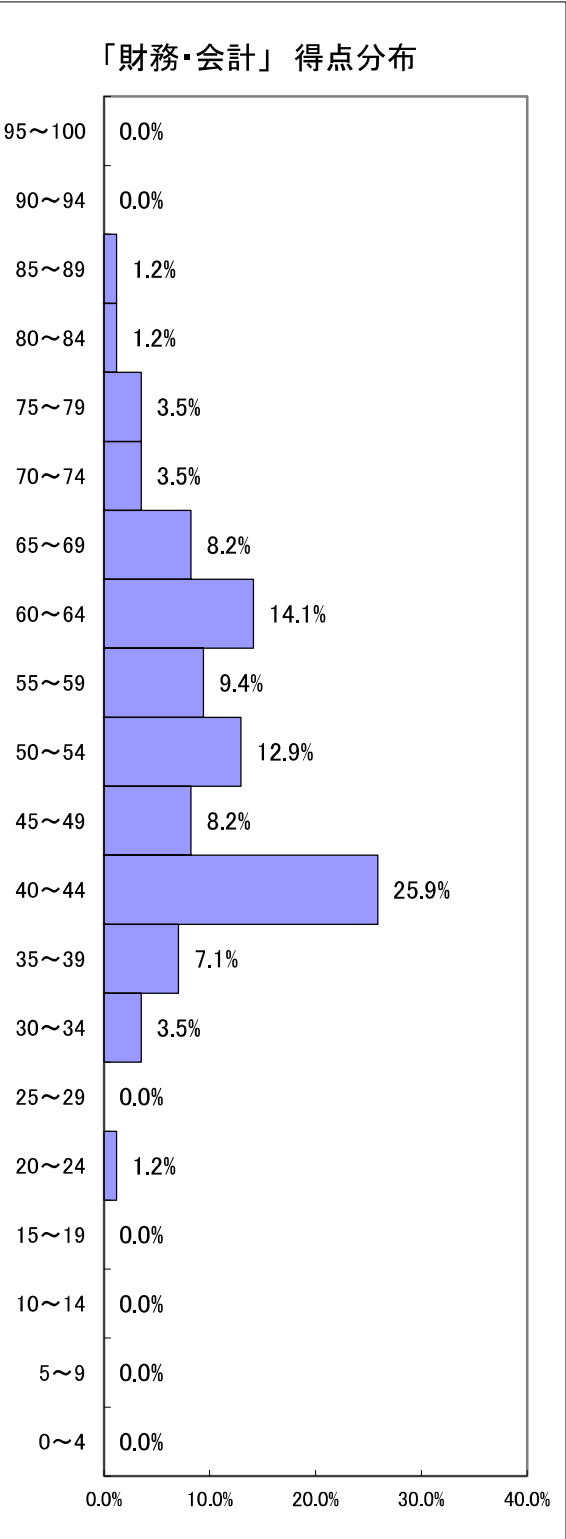


《コメント》
令和7年度の本試験は、過去24年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中21問が5肢択一であったが、今年度は25問中22問が5肢択一であり、若干増加し、引き続き5肢択一の問題の多さが目立った。さらに、前年度は正誤の組み合わせ問題が11問出題されたが、今年度は15問出題された。近年の正誤問題の多さも大きな特徴である。難易度については、基本事項をもとに得点できる問題もあるが、5肢択一問題や正誤問題の多さが、昨年に引き続き全体的な難易度を上げている。つまり、前年度と同様、比較的高い難易度であったと予想できる。よって、今年の問題は、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学14問、ミクロ経済学11問であった。

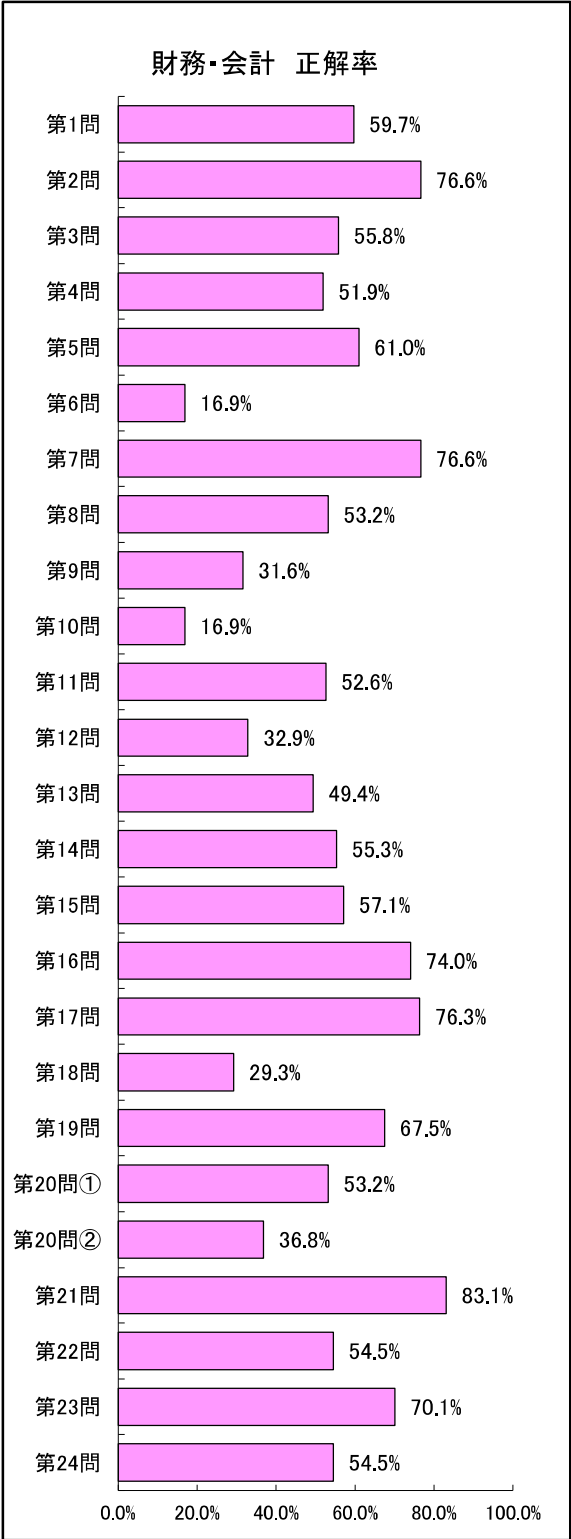
B 財務・会計

平均点：52.7点、標準偏差：12.8

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》

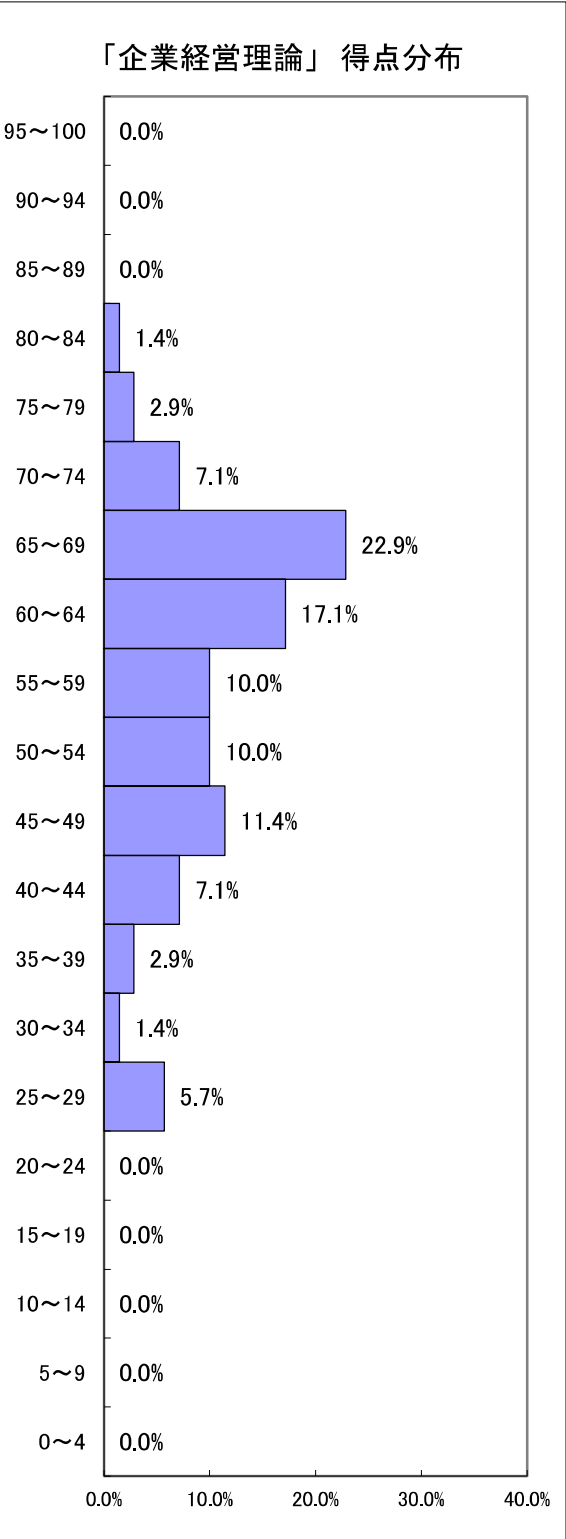
令和7年度の本試験は、前年度までの設問数と同じ25問であった。前年度は5肢択一の問題が1問あったが、今年度はすべて4肢択一の問題となっている。

出題内容は、会計分野（財務会計・管理会計等）が13問（前年度15問）、財務分野（ファイナンス）が12問（前年度10問）であった。近年は、会計分野からの出題割合が高くなっており、前年度に引き続き、今年度も会計分野の出題割合が高かった。出題論点を考慮すると、定番の論点の出題が少なく、全体的な難易度は前年度に続きやや高いレベルにあったと思われる。したがって、今年度はこの科目で60点を確保することが出来なかった受験生も多かったと思われる。

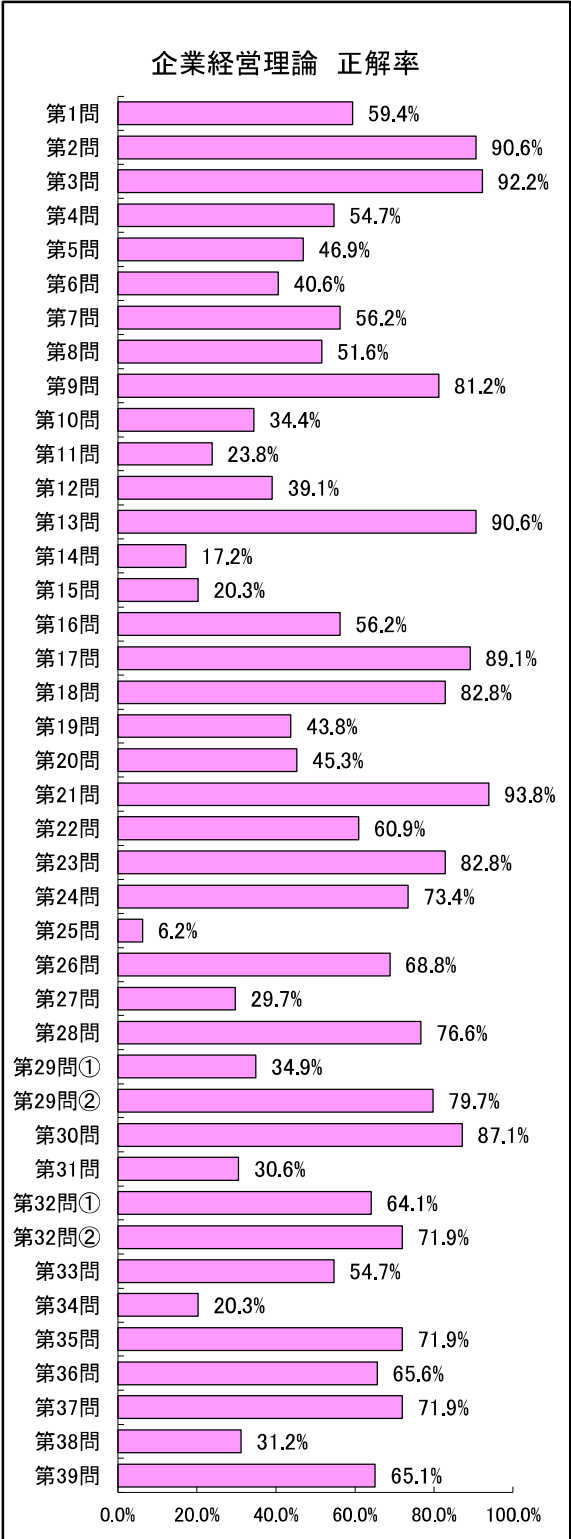
C 企業経営理論

平均点：57.0点、標準偏差：12.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率

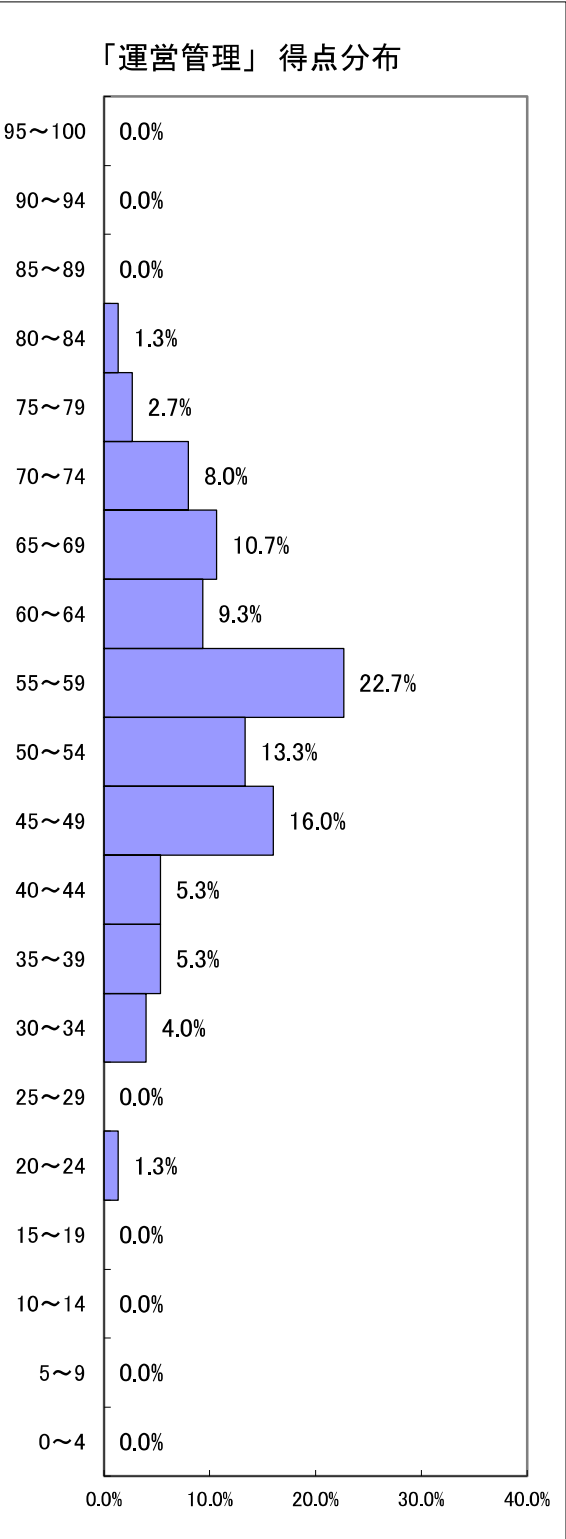


《コメント》
令和7年度の本試験は、量の面から見ると設問数は41設問と前年度と同数である。前年度までと比べ、解答の判断が難しい問題もあったが、全体としては例年並みの難易度であったと思われる。
難易度を決める要因の一つとして、選択肢の数があるが、4肢択一と5肢択一の問題を比較すると後者の方が難易度は上がる。今年度の出題状況を見ると、4肢択一と5肢択一の設問の比率が10対31になっており、前年度の15対26よりも5肢択一の出題数が増加している。よって、難易度は下がっていないと思われる。
出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問（第1問～第13問）、組織論が14設問（第14問～第27問）、マーケティング論が14設問（第28問～第39問）であった。近年の出題傾向と比較しても、出題の分野別内訳はほとんど変化していない。

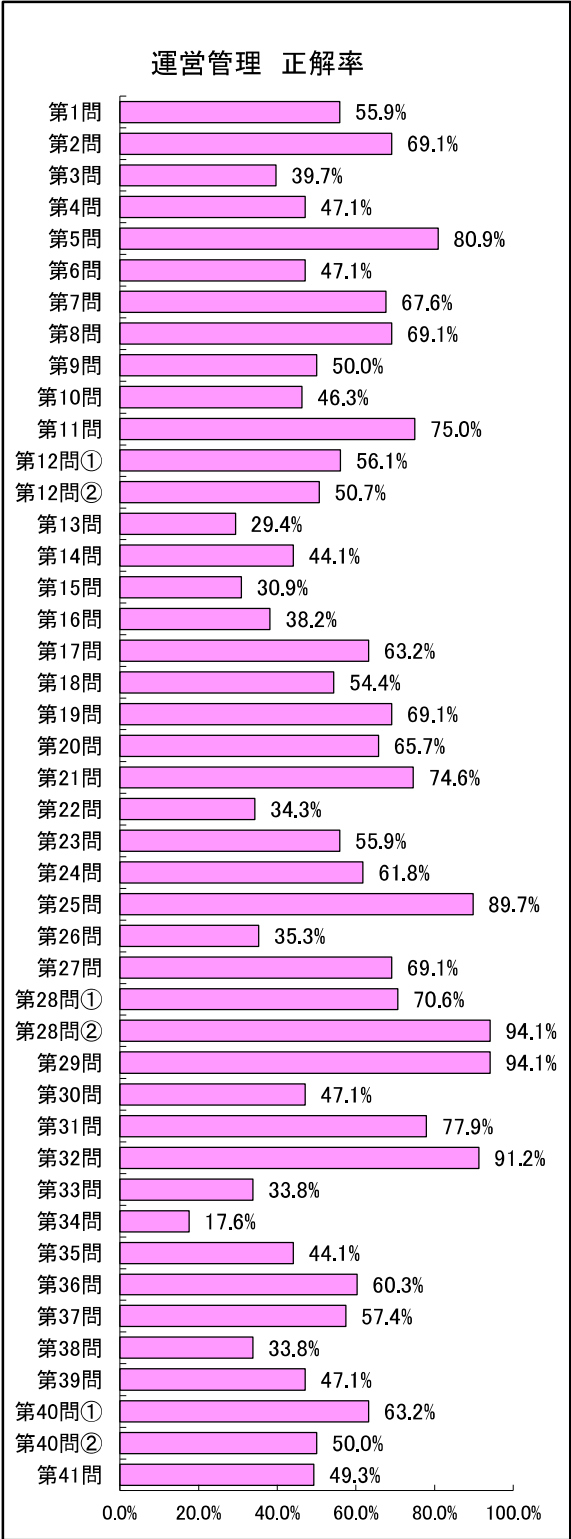
D 運営管理

平均点：55.2点、標準偏差：11.5

■ 得点分布



■ 設問別正解率

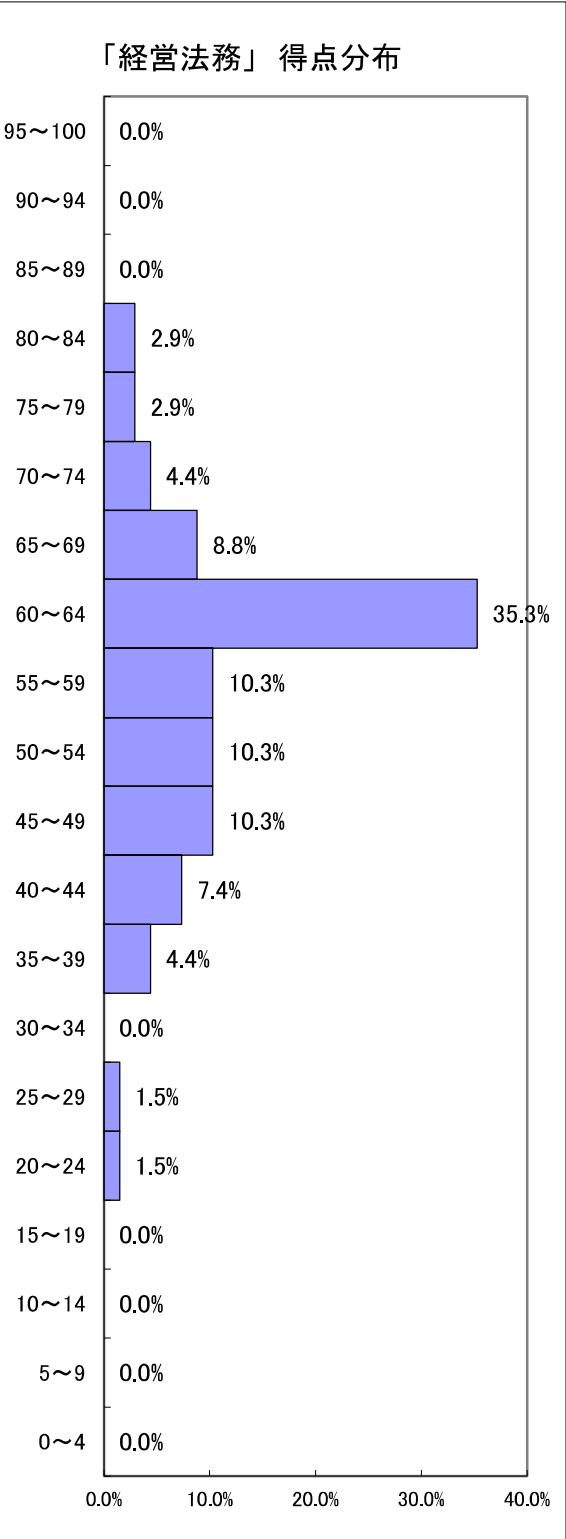


《コメント》
令和7年度の本試験は、運営管理44問（前年度44問）のうち、22問が生産管理（前年度22問）、22問が店舗・販売管理（前年度22問）であり、例年どおり偏りのない出題内容であった。また、5肢択一の問題が生産管理22問（前年度13問）、店舗・販売管理21問（前年度18問）であり、前年度と比べて増加した。しかし、計算関連の問題が12問（生産管理7問、店舗・販売管理5問）出題されており、その他にも、その場で内容を把握して解答を導かなければならない問題も比較的多かったため、解答を見直す時間が不足した方も多かったと思われる。
しかし、生産管理、店舗・販売管理いずれも過去に同様の出題がされた問題も多かったため、全体としては標準レベルの難易度であったと思われる。したがって、基本事項に関する問題を確実に正解できたかどうかで得点が左右されると思われる。今後、過去問題の攻略は必須であると考え。

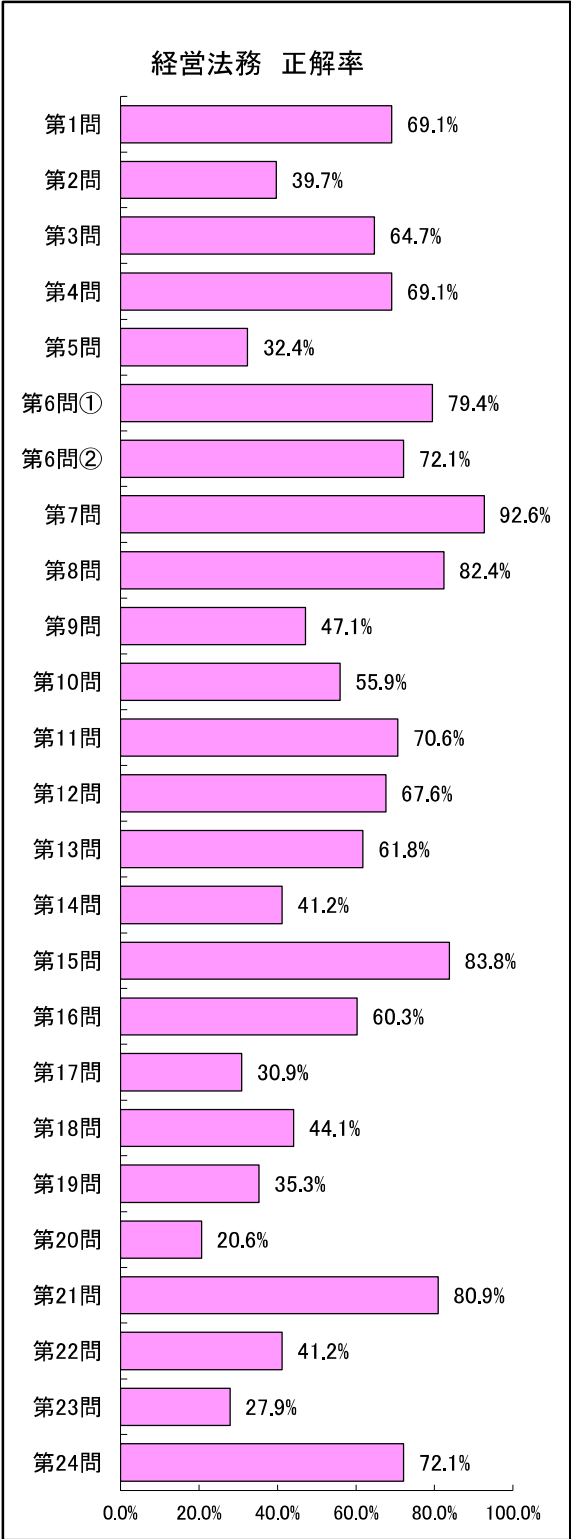
E 経営法務

平均点：57.2点、標準偏差：11.7

■ 得点分布



■ 設問別正解率

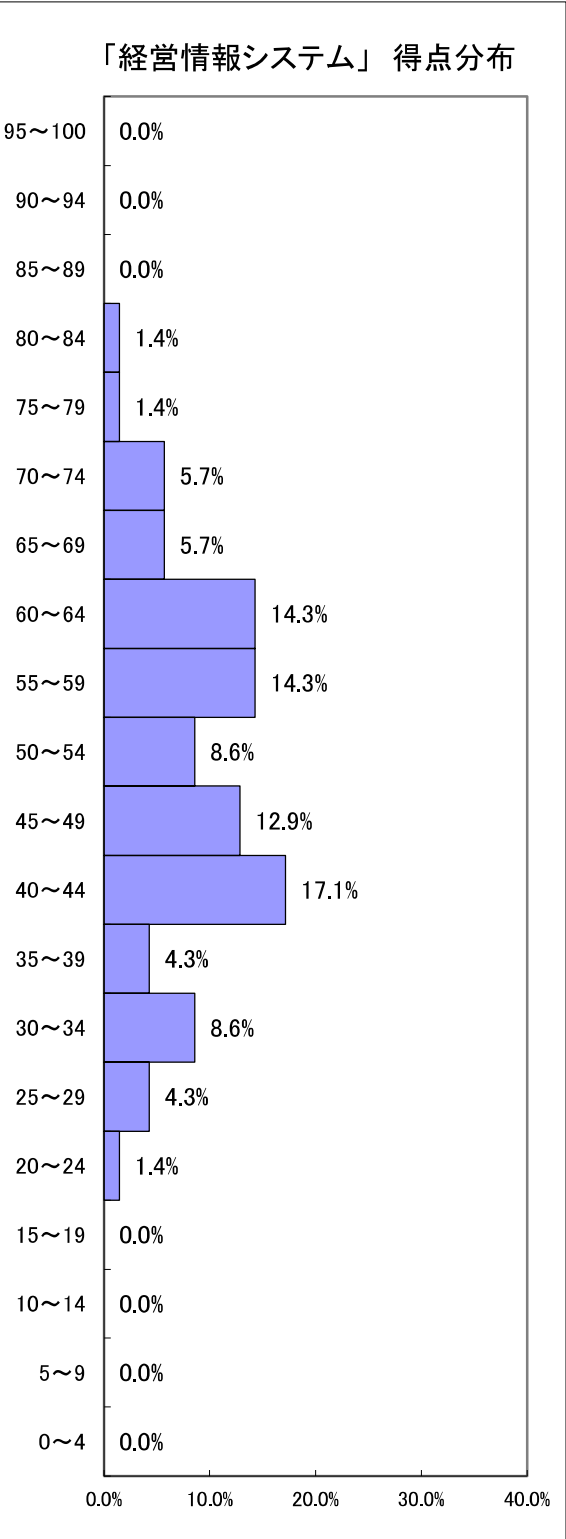


《コメント》
令和7年度の本試験は、問題数は24題（前年度24題）、設問数は25問（前年度25問）であり、前年度と同じ問題構成であった。ボリュームは例年並みといえる。
出題内容は、会社法関連が7問（前年度9問）、知的財産権関連が8問（前年度9問）、民法が6問（前年度3問）・その他が4問（前年度4問）であった。出題内容の特徴としては、会社法関連の出題は前年度よりも2問少なく、民法の出題数が前年度より増加した。知的財産権関連の出題数も、前年度より減少したが、概ね例年通りとなった。出題の中心は、会社法と知的財産権関連であると言える。また、製造物責任法、下請法など、「その他」の出題は変化がなかった。
全体的な難易度は、会社法関連、知的財産権関連の出題数がやや減少し、民法の出題数が増えたものの、標準レベルの難易度であったと思われる。したがって、過去問題にしっかりと取り組んでいた受験生であれば、合格基準点である60点を上回る得点を獲得することも期待できると思われる。

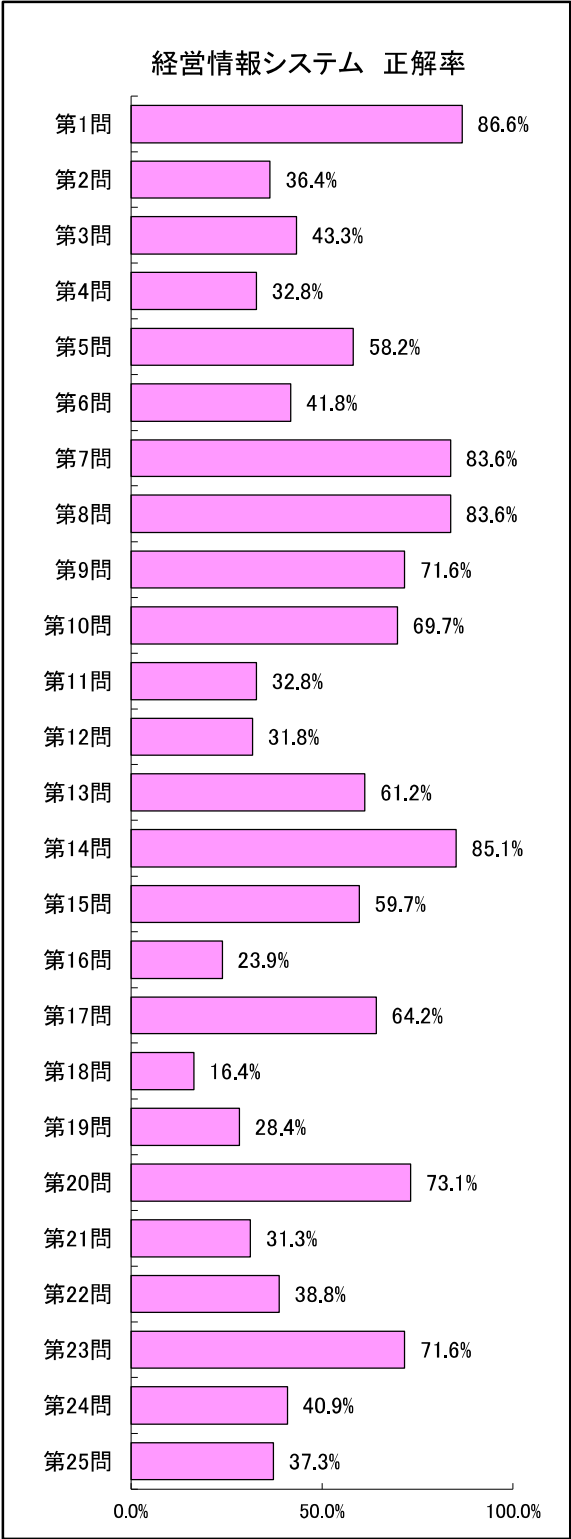
F 経営情報システム

平均点：50.6点、標準偏差：13.2

■ 得点分布



■ 設問別正解率

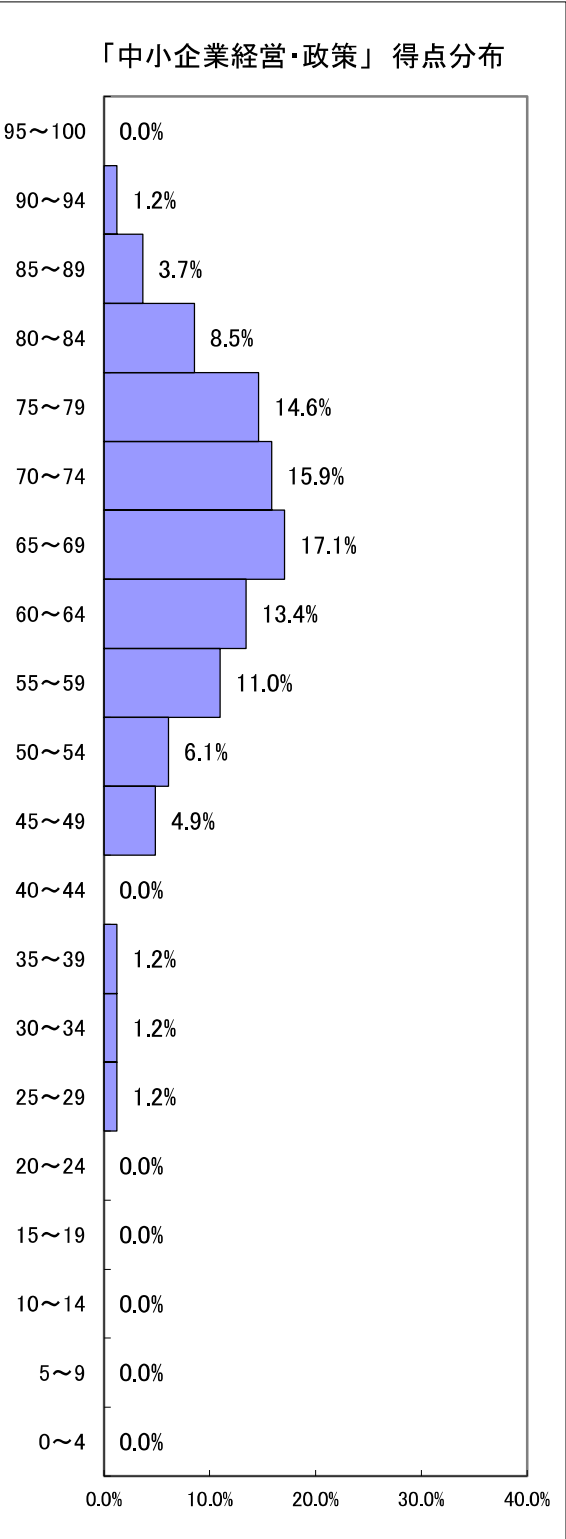


《コメント》
令和7年度の本試験は、近年の設問数と同じ25問であり、5肢択一が23問で前年度までと比べ2問減少した。時事的な出題は例年通り多いが、確実な知識や消去法などを活用することで、標準的なレベルであったと思われる。
出題形式は、空欄補充問題5問（前年度2問）、用語と説明の組み合わせ1問（前年度1問）、計算問題3問（昨年4問）、正誤判断7問（前年度8問）であった。出題の分野別内訳を見ると、概ね第1問～第6問・第8問～第12問が情報通信技術に関する基礎的知識、第7問・第13問～第25問が経営情報管理の出題である。特徴を列挙すると、次のとおりである。①時事問題・最新の内容の出題がある（第20問のAIに対する攻撃、第21問デジタルガバナンス・コードなど）。②確実な知識で正解を絞り込むことができる問題が出題されている。③過去問題の類似問題も出題されている（第13問のシステム開発手法、第23問のEVM、第25問の機械学習など）。
経営情報システムは、難易度のばらつきが大きい科目であるが、正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

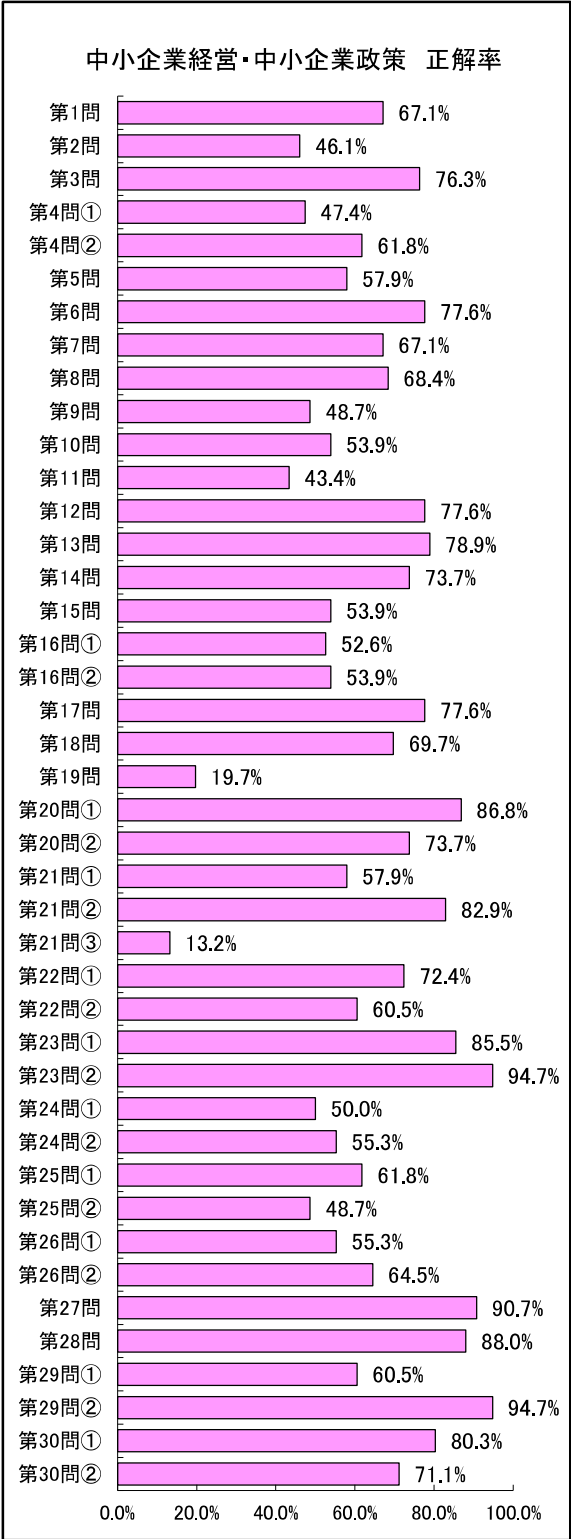
G 中小企業経営・中小企業政策

平均点：66.6点、標準偏差：12.5

■ 得点分布



■ 設問別正解率



《コメント》
令和7年度の本試験は、42問の設問数であり、出題内容別で見ると、中小企業経営が21設問、中小企業政策が21設問と、例年どおりであった。
難易度は、中小企業経営は定番の企業数・従業者総数・経営指標等、中小企業政策は定番論点で確実に得点を積み重ねたいところである。全体的には難易度は、標準レベルであると考えられる。
中小企業経営は、21設問のうち、『2024年版中小企業白書』からの出題が13設問、『2024年版小規模企業白書』からの出題が6設問、その他（『ものづくり白書2024年版』）が2設問であった。
中小企業政策は、21設問のうち、定番の頻出論点等でしっかり得点を積み重ねることができたかどうかで得点が大きく変化する。これまでに出题されたテーマをいかにミスせずに得点できたかがポイントとなるだろう。